



中日病院 名古屋市中区丸の内3の12の3。☎052(961)2491

手指の第1関節が曲がってきた。変形している。そんな方も多いのではないだろうか。膝の軟骨がすり減って変形してくるようになり、手指の関節にも同様の変化が生じます。手指のDIP関節（最も末梢のいわゆる第1関節）で、骨が膨らんで高くなることもに屈曲変形してくる疾患をヘバーデン結節といいます（第2関節に起こるものはブシャール結節）。

この疾患は指を酷使してきた人や、女性ホルモンのバランスが崩れる更年期にあたる時期から多くみられ、時に激しい痛みを伴います。基本的には変形性の疾患であり、特別な治療というものはなく、病状の進行を防ぐために、テーピングや湿布などで対症療法をするしかありません。状況によっては変形した関節を固定する手術をする場合もあり

水ぶくれ 整形外科に相談を

ミューカスシスト(手指粘液嚢腫)

ます。

このヘバーデン結節の背側に水ぶくれのようなぶくれを伴うものがあります。これはミューカスシスト(手指粘液嚢腫)といって、DIP関節から発生した関節液がたまって嚢腫を形成します。もし不衛生な環境での作業などで嚢腫が破れてしまった場合、細菌感染が関節内に波及し、化膿性関節炎を起してしまい、治療に難渋する可能性もあります。病院の清潔な環境下で穿刺をするか、繰り返す場合は手術もお勧めします。

指にできた水ぶくれ。決して自分で破ったり穿刺したりせず、中日病院をはじめとする手の外科専門の整形外科に相談してみてください。

(整形外科副部長・加藤友規)

